

# 小児科

## 【診療科(部)の特色】

小児科医はこどもの総合診療医です。小児科医は、家族を守り社会をみつめる幅広い視野を持ち、最先端の知識と技術に基づいた診療を行います。成長と発達を見守る喜びを感じ、その責任を担う分野です。[山口大学小児科](#)では、若手医師は「よく聞く」「よく観る」「よく調べて考える」を心がけた診療を行うよう指導を受けます。また上級医はリサーチマインドを育む診療・研究・教育を行うよう心がけています。山口大学医学部附属病院は、[小児科病棟](#) 41床と[総合周産期母子医療センター](#)（NICU・GCU）24床の計65床を備え、年間2,000名以上の入院患者のほか、多くの時間外患者にも対応しています。アレルギー・免疫・膠原病、遺伝、感染症、血液・腫瘍、循環器、消化器、神経、新生児、腎・泌尿器、内分泌・代謝など幅広く専門性の高い疾患をかかえた子どもたちが県内外から紹介されます。また、宇部・山陽小野田周辺地域の二次・三次病院としての役割も担っています。基礎疾患を有する患児を長期に診療する県内最大の小児病院として、総合的かつ専門的な医学教育と小児医療を実践しています。

## 【研修目標および研修スケジュール】

将来小児科以外の診療科を専攻する医師でも当直等でこどもの診療に携わる可能性があるため、研修医は熱意と興味を持って小児科研修に取り組んでいます。「参加型」「体験型」を意識して、各研修医の熱意と興味に応じた実践的な指導を心掛けています。自分が親になったつもりで子どもたちを育てる気持ちで、少しでも長く小児科研修を経験してください。

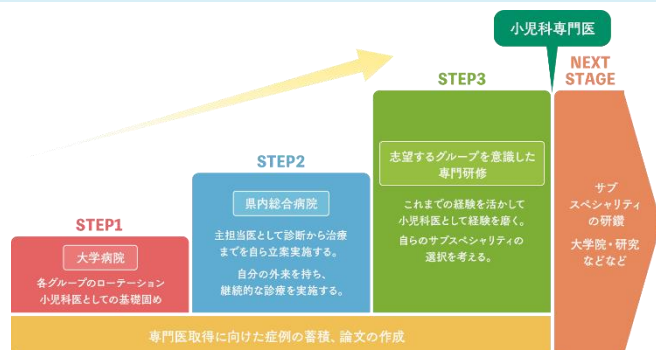
### 7 研修週間スケジュール 例

	午 前	午 後	セミナー等
月	学生指導・外来業務・病棟業務・チーム回診	病棟業務	データカンファレンス
火	学生指導・外来業務・病棟業務・チーム回診	症例検討会・教授回診	医局会・抄読会
水	学生指導・外来業務・病棟業務・チーム回診	病棟業務	
木	学生指導・外来業務・病棟業務・チーム回診	病棟業務	研究会等
金	学生指導・外来業務・病棟業務・チーム回診	回 診	診療グループ別カンファレンス

**研修**の初期目標は小児一次救急の習得です。小児救急医療の資格である PALS プロバイダーにおいて、重症児の評価や治療アプローチを体系的に行うことの重要性が強調されています。指導医のもと採血・血管確保・腰椎穿刺などの処置、エコー・透視などの検査の習得と児の年齢に応じた特徴の理解と病態による重症度を肌で感じてもらいます。同時に、小児の病歴・理学所見の取り方・鑑別疾患・適切な検査の選択などを指導していきます。希望者には、当直業務や休日・夜間救急診療所出務などを通じて小児救急に接してもらいます。さらに、研修者の能力に応じて、患児の基礎疾患から専門分野の研修へと発展させていきます。

## 【キャリアパス】

専攻医プログラムが終了した時点で、小児科専門医取得が一つの目標です。ライフイベントに合わせて柔軟に検討されますが基本的なプランは右図の通りです。それぞれのステップで指導医がしっかりとサポートを行います。その後はサブスペシャリティ専門医の取得や、大学院に入学して博士号を取得するなど様々な[キャリアプラン](#)が用意されています。



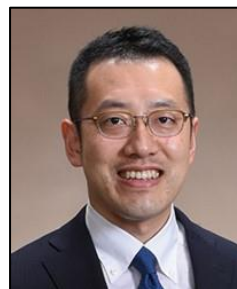
## 【指導医からのコメント】

「こどもたちの家族になったつもりで、優しくたくましい小児科医になりましょう」 岡田 清吾 (2008年卒)

私は山口大学医学部を卒業後、県内で2年間初期研修を行い、小児科医になりました。大学で医学博士および小児科専門医を取得した後、3年間の国内留学を経て、現在の専門分野である小児循環器専門医を取得しました。

山口大学小児科では二次・三次医療の幅広い疾患を対象に診療を行いながら、教育および研究も精力的に行っています。最近は多数の診療ガイドラインが作成されており、基本的にはこれらのエビデンスに基づいた治療を実践しています。しかし、実臨床ではエビデンスの範囲内で解決しない疾患や病態に遭遇することがまあります。

「医は仁術なり」とよく言われるように、医療とは単に疾患を治すだけでは成立せず、患者さんやご家族の心理面および社会的背景にも配慮したケアが非常に重要です。家族の一員になったつもりで、こどもたちやご家族のために何ができるかを私たち指導医と一緒に考えましょう。臨床医は科学的かつ柔軟な問題解決能力が求められますが、誰でも最初からできるわけではありません。大学病院では皆さん若手医師が問題解決能力をはぐむ機会と環境が用意されています。ぜひ山口大学小児科の研修を通じて、優しくたくましい医師に成長してください。



## 【先輩(若手医師)からのコメント】

「こどもの笑顔はかけがえのないもの」 坂本 薫郁 (2019年卒)

私は2019年に山口大学を卒業し、県内の関門医療センターで2年間初期臨床研修を行いました。2年目は小児科・産婦人科・精神科・地域医療などを希望に応じて自由にローテーションしました。また、県外の協力病院で研修を行うこともできたため、山口県の医療を他県と比較することができました。他県での研修経験から山口県の人々の温かさを改めて実感し、3年目以降の医療を山口県で従事することに決めました。

さて、研修医になるということは、長い学生生活を終え、医師として社会の一員として働き始めるということです。これは当然のことであり頭では分かっていたつもりでしたが、研修生活当初は仕事に慣れず、日々疲労が溜まっていきました。そのような中でも、小児科での研修はとてもやりがいを実感できました。どんなに疲れていても、入院中のあの子は大丈夫だろうかと気になり、様子を見に行っていました。また、毎日会いに行くたびにこどもたちが元気になっていき、私たちを笑顔で迎えてくれる瞬間には、頑張った良かったと心から思いました。小児科はこどもの“全身を診る”科なので大変な分野とされていますが、大変さはどの診療科も変わらないと思います。多忙な日々の中で、こどもたちに何度癒されたことでしょうか。こどもの笑顔は本当にかげがえのないものです。みなさんも一緒に小児科でこの幸せを感じてみませんか。



## 【お問い合わせ先】

山口大学医学部附属病院 小児科 岡田 清吾

TEL : 0836-22-2258

E-mail : okadas@yamaguchi-u.ac.jp

Website : <https://www.ped-yamaguchi.com>

Facebook: <https://bit.ly/3gYSCnr>